

<「知るっば!久留米」 令和3年11月4日(木) 12:30~放送分>

## 田主丸地域の魅力 ～第1回～ 「田主丸ってどんなところ？」

<ゲスト：久留米市地域おこし協力隊 黒田 俊光さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今月は、久留米市の東部に位置する『田主丸地域の魅力』をテーマにお送りします。

ゲストはこの方です。

ゲスト:黒田さん(以下「黒田」)

こんにちは!久留米市地域おこし協力隊の黒田俊光です。

移住定住につながる田主丸の魅力発掘と情報発信をしています。

田主丸総合支所の地域振興課にいます。よろしくお願いします。

坂本 今月は、田主丸をテーマに4回お送りします。

初回は、『田主丸ってどんなところ?』です。

黒田さんは去年に続き2回目の登場ですが、改めて自己紹介をお願いします。

黒田 前回お邪魔した時は、耳納連山の風景に一目惚れして移住を決意したことや、

田主丸の植木のお話などをさせていただきました。

私は田主丸地域をメインに活動する地域おこし協力隊員です。

平成31年4月に着任して、早いもので3年目の最終年度となり、任期も残り半年となりました。

現在は、田主丸のいろんな地区のご神事見学などをして、町の皆さんとディープに関わりながら、

SNSで観光・農業・歴史などの情報を発信しています。

坂本 2年ほど前に1度お会いした時からすると、すっかり田主丸に溶け込んでいらっしゃる感じがします。

黒田 後で写真を見ていただくとうちわかんと思うんですけど、服装からほぼ農家さんのような格好です(笑)

坂本 ラジオなのでリスナーの方に写真を見せられないですが、

地域に溶け込んだ格好をしていらっしゃいます。

でも黒田さんは、そもそも関東にお住まいだったそうですね?

黒田 そうですね、以前は横浜に住んでいました。

坂本 以前お伺いしたかもしれませんが、どうして田主丸にお見えになったんですか?

黒田 もともと日本の歴史や美術が好きで、そういう所に行きたいなと思っていました。  
その手段として地域おこし協力隊を選ぶことにしたんですけど、  
応募時点で、なんと私 58 歳でした(笑)  
ちょっと年齢がね、歳とりすぎているので無理かもしれないとも思いました。  
ところが、幸いなことに久留米市の東京事務所の方が地域おこし協力隊の制度を紹介してくれて、  
面接の1カ月前に初めて田主丸を訪れました。  
そのときに、久大本線から見た耳納連山の美しさに一目惚れしてここに来ようと即決しました。

坂本 耳納連山の美しさに一目惚れだったんですね。  
ただ、地元にいると毎日見るので、それが当たり前になってしまうんですね。

黒田 そうそう。地元の人に、きれいな山ですねって言うと、「どこがいいの?」とか「何がいいの?」って  
いつも言われますね。

坂本 慣れというか当たり前になってしまっているの、そう思うんでしょうね。

黒田 季節や天候に応じて全然姿が違いますし、とっても美しい山だと思います。  
雨上がりには、山の中腹に龍が躍っているような横に長い棚引いた雲が出てきて、  
それはずっと出ているわけではないので、それを見れた時はとても嬉しく思います。

坂本 そんな田主丸といえば農産物。中でもフルーツが有名で、今は柿が旬ですよ!

黒田 柿狩りが9月半ばから始まっているのですが、  
今だと11月の初めなので、実が大きくサクサクした食感の「太秋」のシーズンが終わって、  
これからいよいよ甘柿の王様と呼ばれる「富有柿」が本番となります。  
田主丸には8つの柿狩り農園があって、どこも入園と試食が無料なんです。  
自分の手でもぎ取る柿はおいしいし、健康にもいいですよ。

坂本 美味しいですよ、柿大好きなんですよ。  
「柿が赤くなれば、医者が青くなる」ともよく言いますね。  
ビタミン豊富な柿はこれからの季節、風邪の予防にピッタリです。  
それと、季節は過ぎていますが、ブドウ、特に巨峰も有名ですよ。  
田主丸でフルーツ(柿、巨峰)狩りの始まりは、昭和30年代と聞いております。  
何かきっかけがあったんでしょうか?

黒田 今でも田主丸の観光といえば、「柿狩り」「ブドウ(巨峰)狩り」「河童」の3つがあるんですけど、  
実はこの3つには深い繋がりがあります。  
昭和30年代の初めに、ブドウや柿の栽培が本格的に始まりました。  
当時は、畑に観光客を入れるようなことは絶対にあり得ないと考えられていたんです。

何されるかわからないし、怖いですからね。

しかし、当時の若手グループで結成された地域団体「河童族」の代表：福田秀実さんが、「柿畑で柿狩りをしてもらえばいいじゃん!」という奇想天外な提案をしたのがフルーツ狩りの始まりです。

坂本 河童族といっても、河童文化を広めようというだけじゃないんですね。

黒田 河童族という名前のおり「河童で町おこしをする」というのが主な目的で、JRの田主丸駅も河童の駅になっていますが、その原点となった河童像を駅に設置したのも河童族です。

また、8月8日は「河童の日」と制定されているんですよ。

マスコミにも紹介されましたが、その日に河童祭をしようということで子どもたちが神輿を川の中で担いだりだとかを始めたのも河童族です。

もう60年以上、河童を使って町おこしに取り組んでいる人たちです。

その河童族の始まりと同じ頃、昭和30年頃に巨峰が全国で初めて田主丸で栽培されるようになりました。

ところが、この巨峰は実が大きいために粒落ちが早いという欠点がありました。

坂本 すぐに房から粒が落ちるということですね。

だから、遠方への出荷が難しかったということですね。

黒田 ところが、田主丸の人たちはこれを逆手にとって、

粒が落ちるんだったらお客さんに摘み取ってもらえばいいじゃんということで、既に始まっていた柿狩りをヒントに「巨峰狩り」が始まりました。

今ではすっかり有名ですけど、巨峰狩りで粒落ちしやすいという欠点を克服し、大成功を収めました。

まさに、河童族なくて柿狩りも、巨峰狩りも誕生しなかったと言ったところですかね。

坂本 「河童ツアー」なるものが始まるらしいですね？

黒田 はい、そうなんですけど…今日はもうお時間がきているようですが、どうしましょう？

坂本 では、お時間となってしまったので続きは次回ということで。

地域おこし協力隊の黒田さん、興味深いお話をありがとうございました。

柿狩りについて詳しくは「田主丸観光柿狩り」で検索してください。

次回は『田主丸の新たな観光メニュー』をテーマにお聞きます。

お楽しみに。